



光星・横山陽土内野手(出身)

打撃練習に汗を流す八学光星の横山=22日、大阪府豊中市

「ヒット」打って 仲間を笑顔に

勝負強さ武器 代打備える

選抜高校野球大会(センバツ)に出場している八戸学院光星の横山陽土内野手(3年)の名前の読み方は「ひつと」。野球が大好きで、かつて青森工業高校で球児だった父・順紀さん(45)が「ヒットを打って周りを明るく笑顔にしたい」と願って名付けた。勝負強い打撃が持ち味。初戦は出番がなかったが、次戦も代打での一打に備える。

(佐藤正悟) 【本記11画】

青森市泉川小2年で野球を始めた。小さい頃、病院で名前の読み方をよく間違われた。打席に立てば「ヒット」を期待される。最初は抵抗があったが、今は「変化も受け、打撃が好調で、わった名前でもみんなから覚えてもらえる。いい名前だと思ってる」。青森西中時代は青森戸山

の補助役に回った。けがが治り、練習試合で結果を残し、東北大会でベンチに入った。でも、出番は決勝での代打1打席のみ。内野ゴロに終わっ

た。迎えた初めての甲子園。背番号5をもらった。19日の赤徳(広島)戦は打席の出番がなかったが、仲間の打力で延長戦を制し、「楽しめた」。24日の2回戦は滋賀学園と戦つ。初戦、スタンドで声援を送った順紀さんは

「私の夢をかなえてくれたと息子に感謝。「チームの役に立ってくれたら」と次戦へエールを送る。横山自身も「自分の成績も大事だけど、チームの勝ちを優先に頑張りたい」。たとえヒットが出なくても、勝利のためにできることを全力でやるつもりだ。